

# 知的財産翻訳検定過去問研究 (12)

第26回知的財産翻訳検定試験<第14回和文英訳>1級 機械工学合格者  
 第27回知的財産翻訳検定試験<第13回英文和訳>1級 機械工学合格者  
 第31回知的財産翻訳検定試験<第4回中文和訳>合格者  
 園田・小林知財サービス株式会社 翻訳部 谷中 修

## 1. はじめに

シェイクスピアの四大悲劇のうちの1つである「マクベス」の第四幕は、次の有名な台詞で閉じられている。

The night is long that never finds the day.

この台詞は、主人公のマクベスが、主君であるスコットランド王のダンカンを殺して下剋上した後、ダンカンの息子のマルカム王子が、暴君マクベスを倒すべく、決起を呼びかけるときに口にした台詞である。

この一文は、逐語訳が通用しない典型例と言ってもよいであろう。多くの翻訳家がこの翻訳を巡って四苦八苦してきた跡がある。以下に幾つか例を挙げる。

坪内逍遙 <sup>*1</sup>	永久に明けないと思へばこそ夜が長いのである。
森鷗外 <sup>*2</sup>	永眠の夜は永いから。
福田恒存 <sup>*3</sup>	どんな長夜も、かならず明けるのだ。
木下順二 <sup>*4</sup>	長い夜にも必ず夜明けは来る。
松岡和子 <sup>*5</sup>	朝が来なければ夜は永遠に続くからな。

この台詞は、マルコム王子が、マクベスの暴政を悲観して言ったのか、あるいはマクベスを倒した先の未来を楽観して言ったのか、解釈の仕方によって訳が変わってくるようだ。

興味深いのは、この英文をインターネットで検索すると、「明けない夜はない」という訳が多く出てくることである。しかし、筆者が調べた限りでは、この訳の原訳者は不明である。誰かが訳したものがインターネットで出回り、定着したのではないかと推測している。文化庁が、コロナ禍の状況下で文化芸術活動に携わる者を励ますメッセージを出した際に、このフレーズが引用され、話題になったことも

あった<sup>\*6</sup>。

文芸翻訳では、逐語訳が通用しないような原文を訳す際に、翻訳家の解釈や願望のようなものが投影されてしまうことがある。しかし、物語の流れを汲み取るような訳であれば、許容されるのであろう。

しかし、技術翻訳において逐語訳が通用しない場合、訳者はどうすればよいだろうか。あくまでもターゲット言語で「技術的に等価な概念」を再現しなければならない。それは、あたかも複雑に絡み合った糸を解きほぐすような緻密な作業である。

2020年の10月に実施された機械工学分野1級の試験では、逐語訳では全く歯が立たないような英文が出題された。しかも英日辞書を用いただけでは適切な訳語に辿り着かない用語や表現も多かった。今回は、そのような原文にどう対処すればよいかを考えてみたいと思う。

## 2. 第31回(第15回英文和訳) 機械工学分野1級問1解説

本問は、列車の衝突時の安全対策の従来技術に関する文である。問題の指示は、「英文の冗長なスタイルや細かい表現にとらわれず、技術的なポイントが明確になる翻訳を心がけてください」ということであった。

原文と訳文を以下の順序で並べて解説する。

1. 原文
2. Google Translation 訳 (G)
3. 知的財産翻訳協会の模範訳 (模)

逐語訳の例として、Google Translation 訳を採用してみた。模範訳との違いを比べてみると、様々な論点が見えてくる。ポイントとなる用語や表現は太字にした。

Despite being the most widely-used mode of transportation in the world, second only to **foot**, passenger trains have one **glaring omission** in comparison with most all other transportation means: **collision safety for passengers**.

G 世界で最も広く使用されている交通手段であるにもかかわらず、**徒歩**に次ぐ旅客列車は、他のほとんどの交通手段と比較して、**乗客の衝突の安全性**という1つの**明白な省略**があります。

模 **徒歩**に次いで世界で最も広く利用されている移動手段である旅客列車は、他の移動手段と比較して**顕著な欠落点**がある。それは、**衝突時における乗客の安全**である。

- **foot** - 間違っても「足」と訳さないようにしたい。ここでは、旅客列車と対比させて、移動手段としての「徒歩」のことを指している。
- **glaring omission** - glaring は、「きらきら輝く」や「どぎつい」などと心情的な印象を表す形容詞である。しかし、この場合は「顕著に」や「著しく」など、程度を表す形容詞として訳せばよい。特許翻訳では、原語の心情的な要素を訳語に反映させる必要はない。
- **collision safety for passengers** - 逐語訳すると、Google Translation のように「乗客の衝突の安全性」となってしまう。しかし、これでは「乗客が衝突する安全性」という意味にもなりかねない。列車の衝突が起きた場合、乗客の安全を確保することが重要であることは自明であるから、語を組み替えて「衝突時における乗客の安全 (passenger safety in case of a collision)」とするのが適切であろう。

It would be misleading to say that passenger trains have no **safety features** at all, since modern railway systems **have sophisticated collision prevention measures in place**.

G 現代の鉄道システムには**高度な衝突防止対策が施されている**ため、旅客列車には**安全機能**がまったくないと言うのは誤解を招くでしょう。

模 現代の鉄道システムは**高度な衝突防止手段を講じている**ため、旅客列車に**安全機能**が全くないと言ってしまうと語弊がある。

- **safety features** - feature は、「特徴」と訳されることが多いが、あるモノの feature に何らかの能力や働きが備わっている場合は、「機能」と訳すこともできる。「機能」の原語としてまず思い浮かぶのは function であるが、function と feature の関係性を考えてみると、function = feature + ability という図式が成り立つであろう\*7。

- **have sophisticated collision prevention measures in place** - in place を「場所」や「ところ」に関連付けないようにしたい。put (have) in place には、「実施する」、「実行する」、「導入する」という意味があり、implement と似たような意味で使われる\*8。

例)

Japan will put new restrictions in place.

Japan will implement new restrictions.

日本は新たな規制を導入する。

However, passenger safety considerations in a case of an actual collision are practically nonexistent, for a reason that might as well be bureaucratic monologue: train crashes should never happen in the first place, so there is no need to prepare for one.

G しかし、実際の衝突の場合の乗客の安全上の考慮事項は、**官僚的な独白**である可能性があるため、事実上存在しません。列車の衝突はそもそも決して起こらないはずなので、準備する必要はありません。

模 しかし、実際の衝突において乗客を守る安全策は皆無である。しかも、その理由とは、列車の衝突はそもそも起きてはならないものであるから備える必要もない、と**お役所の一方的な言い分**も同然なものだ。

- **bureaucratic monologue**: - bureaucratic monologue の末尾にコロン (:) が打っており、その後に bureaucratic monologue の内容が続いている。Google Translation はこの構造を読み解くことができなかった。

研究社の新英和大辞典 (第5版) で monologue を引くと、「ひとり芝居」、「ひとりぜりふ」、「独白」等の定義が出てくる。ここでは、衝突時に乗客を守る安全策がないことに対する言い訳が述べられているので、それに則した表現にするべきであろう。

合格者の訳を見ると、「形式的な観念」、「官僚的な考え方」、「官僚的な独り言同然の理由」という訳があった。それぞれの訳者の工夫の努力には頭が下がる。

Accordingly, no seatbelts, **no crashproof anchoring of seats to frames**.

G したがって、シートベルトはなく、シートを**フレームに衝突防止で固定することもできません**。

模 そのため、シートベルトもなければ、**座席の支持構造体への固定も衝突に耐えられるようなものになっていない**のである。

- **no crashproof anchoring of seats to frames** – ここで crashproof は、anchoring にかかっており、anchoring との関係においては副詞的に用いられている。しかし、「シートをフレームに衝突防止的に固定していない」などと訳すと、不自然な日本語になってしまう。合格者訳の中には、「耐衝撃性を考慮してシートをフレームに固定することがなされていない」という良訳があった。一言足すだけで随分こなれた表現になる。また、模範訳のように、この句の中の crashproof と anchoring との間の修飾／被修飾関係を、anchoring of seats to frames is not crashproof という節のように理解して訳すと自然な日本語になる。

Yet <b>nothing could be farther from the truth</b> , with fatalities mounting yearly.	
G	それでも、毎年死者が増えており、 <b>真実から遠く離れることはできません</b> 。
模	しかし、 <b>現実</b> は <b>真逆</b> で、死亡者数は年々増している。

- **nothing could be further from the truth** – このフレーズも逐語訳してしまうと全く意味をなさなくなる。このフレーズの定義を英和辞書で探すのは大変だが、LONGMAN 現代英英辞典には、“used when you want to say that something is completely untrue” という定義が載っていた。合格者の訳には、「これは全くの見当違いであり」や「実際にはそれどころではなく」というこなれた表現もあった。恐らく、文意を汲み取って瞬時に決め打ちしたのではないかと思う。

なお、LONGMAN や Merriam-Webster 等のオンライン辞書は気軽に使えるので、ぜひお勧めしたい。筆者は、複数の英和辞書を引いても用語の意味が掴めないときは、LONGMAN → Merriam-Webster という順序で調べることが多い。

USP 7,536,958 describes an attempt to address this issue, however simply seating passengers backwards would but <b>expose them to flying objects (and passengers) in a frontal crash</b> , and be meaningless in <b>telescoping</b> , where one car is displaced inside another, not to mention motion sickness for some riders in normal operations.	
G	USP 7,536,958 は、この問題に対処する試みを説明していますが、乗客を後ろに座らせるだけでは、 <b>正面衝突時に飛んでいる物体（および乗客）にさらされ</b> 、乗り物酔いは言うまでもなく、ある車が別の車の中で移動する伸縮には意味がありません。通常の操作で一部のライダーのために。

模	米国特許第 7,536,958 号には、この問題に取り組む試みが記載されているが、単に乗客を後ろ向きに座らせただけでは、 <b>正面衝突時に物体や他の乗客が飛来する危険に晒すことになる</b> 上、ある車両が他の車両の中に突入する <b>テレスコーピング現象</b> が発生した際には無意味である。通常運転時においても、一部の乗客の乗り物酔いにもつながりかねない。
---	--

- **USP 7,536,958** – 英数字をそのまま訳文に反映させてもよいが、「米国特許～号」などと訳するのが丁寧であろう。なお、USP の P は Patent のことであるが、この略称はあまり見かけない。
- **expose them to flying objects (and passengers) in a frontal crash** – 従来技術の問題点を取り上げている一節である。列車が正面衝突した場合、その衝撃によって物体が後ろから飛来してくるので、後ろ向きに座っている乗客に物体が当たる可能性があることを思い描きながら訳出する必要がある。
- **telescoping** – telescope とは望遠鏡のことであるが、telescopic という形容詞には「入れ子式の」という意味もある。また、研究社の新英和大辞典を見ると、「(列車などが衝突して) <前後の車両を>折り重ならせる」という定義が載っている。つまり、ここで telescoping は、列車の衝突や追突時に、慣性の法則によって、後ろの車両が前の車両に入れ子式に食い込む現象を表している。ウィキペディアには、「テレスコーピング現象 (鉄道)」という項目が存在するが、一般の辞書を用いてもこの訳語に辿り着くことは難しいであろう。2名の合格者が見事に「テレスコーピング現象」と訳していた。
- **car** – 列車の「車両」のことである。筆者は、最初に本文を読んだとき、恥づかしながらも、列車に自動車が入り込んだことを意味していると勘違いしてしまった。

And <b>crumple zones</b> are quite limited in effectiveness in high-speed passenger trains, some of which will be traveling at close to half the speed of sound once Japan's new maglev superexpress is completed and operational.	
G	また、 <b>クラッシュゾーン</b> は高速旅客列車では効果がかなり制限されており、日本の新しいリニアモーターカーが完成して運用されると、その一部は音速の半分近くで移動します。
模	また、 <b>クラッシュゾーン</b> の効果も、高速旅客列車においては極めて限定的である。日本の新しいリニア新幹線が完成して運用が始まると、このような高速旅客列車の一部は音速の半分に近い速度で走行することになるのである。

- **crumple zone** – Merriam-Webster では、“a section of an automobile body designed to absorb the force of an impact in order to protect the passengers” と定義されている。日本語では「クラッシュブルゾーン」という専門用語が概念的に近い表現であろう。自動車用語に詳しい者はピンとくるのだと思う。ただし、「クランブルゾーン」も間違いではない。合格者訳を見ると、「クランブルゾーン」、「衝撃吸収ゾーン」、「クラッシュブルゾーン」の3つがあった。Google Translation が「クラッシュブルゾーン」と訳したのが興味深い。

A fundamental solution that would be neither <b>cost-prohibitive</b> nor excessively restrictive on passenger freedom has yet to be proposed.	
G	<b>費用が高額</b> でもなく、乗客の自由を過度に制限することもない基本的な解決策はまだ提案されていません。
模	<b>桁外れの費用</b> を要せず、且つ乗客の自由を過度に制約しない、根本的な解決法は未だに提唱されていない。

- **cost-prohibitive** – たまに見かける用語であるが、一般の英和辞書にはほとんど載っていない用語である。LONGMAN や Merriam-Wester にも載っていなかった。オンライン辞書の英辞郎を覗いてみたら、「けた違いの [法外な] 費用がかかる」という定義を見つけた。

英辞郎等のオンライン辞書は便利であるし、一般の辞書に載っていない用語も掲載されているが、特に特許請求の範囲の用語を訳す際には、権威ある辞書に基づいて訳語を決定し、念のために広辞苑等で訳語の意味範囲を確認すると安全であろうと筆者は考えている。

### 3. さいごに

本問は、実務では滅多に遭遇しないような癖のある英文であった。しかし、特許明細書は、必ずしも英語ネイティブによって書かれていないことがあり、母語の干渉等により、わかりにくい用語や表現または文法の誤用に遭遇することが多い。

ちなみに、『マクベス』の訳者のうちの一人の松岡和子氏は、前述の台詞を訳すにあたって12人の英米人に意見を訊いたと訳者あとがきに記している。文芸翻訳と知財翻訳は性質が異なるが、知財翻訳という仕事は、時にはシェイクスピアの戯曲の翻訳に挑むような気概をもって書き手の意図や背景技術を十分に熟慮・調査して、等価な概念を適切に表現しようと試行錯誤するところに面白味があるのだと思う。

次号から3ヶ月にわたって、今年の4月に実施された第32回知的財産翻訳検定試験<第17回和文英訳試験>を取り上げる。

#### <参考文献・資料>

- \* 1 シェイクスピア, 坪内逍遙訳, 『マクベス』中央公論社, 1935, p.159
- \* 2 『鴉外全集 翻譯篇 第十卷』岩波書店, 1955, p.143
- \* 3 シェイクスピア, 福田恒存訳, 『世界の文学 セレクション 36 シェイクスピアⅡ』, 1994, p.336
- \* 4 シェイクスピア, 木下順二訳, 『マクベス』岩波文庫, 1997, p.116
- \* 5 シェイクスピア, 松岡和子訳, 『シェイクスピア全集 3 マクベス』ちくま文庫, 1996, p.150
- \* 6 美術手帳, 長官メッセージに批判。文化庁は具体的な補償内容への言及を (最終閲覧日 2021年12月4日) <https://bijutsutecho.com/magazine/insight/21595>
- \* 7 ネイティブと英語について話したこと, 「機能」を意味する feature と function の違い (最終閲覧日 2021年12月4日) <https://talking-english.net/feature-function/>
- \* 8 Oggi.jp, 英語のニュース記事でよく見る「in place」の意味と使い方 〈役立つ英語表現 #7〉 (最終閲覧日 2021年12月4日) <https://oggi.jp/6505989>